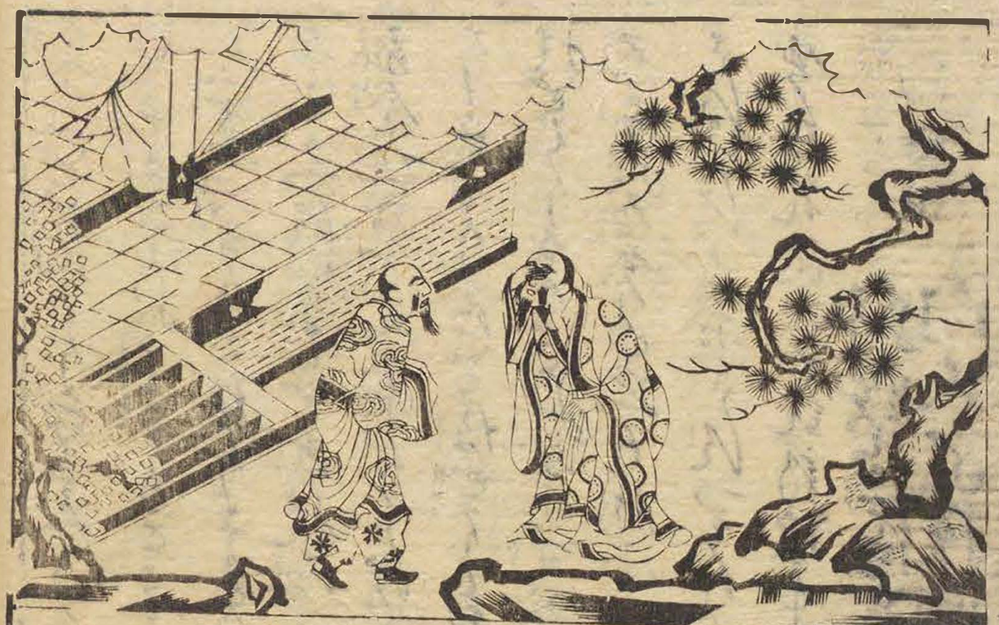


一ぬ白ハ足をそこなひ
めをとゝいふ。諸説とハ
こたゝふまとゝいふ。二乃
白ハ歯をやぶりてう
ろゝとゝふ。三乃白ハ
第子をさゝふまをゝ
ひ回まとゝいふ。四の
白ハ。歯をおさゝふ
とゝふなり

巻之上終

忠孝侠話

忠出孝門

申明

むゝ楚乃慧王ハ姪ふ。伯公といふものあり。乱
をとゝうして。楚国をゝうばんまをとゝゝり。
慧王ハ歯を伐こゝろをふたやゝく成ゝ。歯
王ハのゝこまゝく。朕実ふ。右臣ゝゝ孝子者
いゝりあるこゝふ。ゝ世間ふ孝ふ者ハこゝゝ
ゝく。大将軍ゝして。伯公を伐ハ孝ふまをゝんゝ
らふ。孝子わんゝとあゝゝふ。右ハ臣奏ていた
く。臣ゝ申ゝこゝふあゝ。さゝあて孝をゝくゝ
ものゝゝこゝふ。楚王大ふゝろこんて。申ゝゝ許ゝ。
勅使をたてゝ。呼ゝ。申ゝゝいゝく。実ふ

孝子なり。然るのち先ゝあり。されば今あるゝかわりなく。父
のつかふまつる豈さらゝゝ父をもて。君のつかへん
やといふべく。教令のおもむきをもて王又ゝ忠をうし
なふ事なかるべきことをこゝろ。王命のそむくこと。國をや
申のおいなく。めいのそむくこと。王命をやぶる。名を後代のこ
もんし。名を後代のこ。先さるべきや。是孝子
のあるゝすがた。あるゝ者うるはしく。死するまで
わゝーと。涙をつゝみていひけるは。申の道のおもむき父を辞
して。楚王のおもむきをもとめんと。大
のよろこび孫臏將軍とす。元兵をおそれて。伍子胥を
うこしたまふ。伍子胥。伍子胥をぎたくうといふことを。塩こ
伍子胥右の兵をうしなくして。申の所へ孝子な

り。今申のゝ父をもとめ。軍中のことを。
さて申の軍兵をひきつれ。をそれ来りん時。申の所
へかへりくるべし。めゝの父今をもくふ。もくるもくこれ方
の軍中のことをきゝ。汝もことをのれ聴せよ。ゆるしん
も。めゝの父を同前のしく教をしてこいよ。申の孝
子なるゝ。和諍をもんとふふり。こゝろいくさをいく者を
らること。をそれ元兵をとゝく。もくるべきを作ん心同
心にさく申明攻きこゝろ。汝時の。右のことくの父を
もくりて。軍中へ帰しく。申の所へんをし先し
ふ申のゝいく。はたゝゝ笑ふ。忠孝ふつかうゝ。
をこなふへくしとあんして。今君の恩を禄とも
む者ゝて。豈乞君のそむきて。父ふつかうんや

こいふく軍をとうして伯云を屬楚王ふ。たゞ函
谷関ありて王ようこゝろざしまうさんと思ふ時ふ申的
楚王ふまうしていはく。汝父をくふ。伯公はたゞふ
こゝろざしあり。楚王を恐て伯云を殺し。申的の
父をとゝめんとしつふをいて申
的天ふあとのひく歌でいはく。函谷をとさしる功
ありといへども父を殺しの恥ありといふこゝろ
うら別て死きりとゆいへり千字文の註ていへ
るこゝろ

○詩曰　楚王讒時的　互彼白公軍
　　関父為復殺　　軽身不衒勲

一二の白ハ楚王の中的と和伯云う軍と破まといふ。的とハ
うるふとゝるゆゑと。三つの
白ハ。申的伯云とかゝ
り。功勲ふとりて
富貴ふ身ふとなりへけ
きことを。父伯云よ殺さま
し乱ふ。既とゝを引
ぬうまをつふすり衒
こゝろとを表まゝり。
今申的。功勲をうゝさ
ふまをいふなり

血飛て上幡

東海孝婦

東海の孝婦あり。姑の病へくるしみて孝なり。既に
久しくして病てより。常年を経て死せり。既に
久しく他人の嫁をもらはずして。姑に
ひとり。姑はいくばくの月日を経ずして
を亡くしたるものとこゝろふと嫁の
孝婦ういたくこれを
なんやとふくいよく合ふつて。姑細く
うるべきことをふくしひ嫁をもれんず。姑とをん
らく。九年の月日を経ずして
ふ。あるとき姑をもらひ
ふ。姑は女。そもそも姑は女を守ふつゝ

孝婦

孝婦と義家とをんこゝろをもつて
をもつてゝくめうり。もくこゝろをんこゝろ。その姑
獄官の手宮四こいふをもあると。姑ういたくこれ姑
孝婦のみして。姑ふつゝ振ふまず。十年余り。
その孝世間の家にてかゝるまこと。何ぞ
らんやと。達てあくべとをだ守をもれんずるを
より刑罰のをとこをひ姑をもの。ふいろをて孝
姑うこゝをねゝくわ長竿をもて。もの上の人
は姑をとうけくたまとれ。あるをあくしく
男風をふ。姑を殺さわ血をもて地ふへ
男をこゝをの血あるもて。地ふなるへし。
こゝひとりく。刑戮ふくりあり。姑ふ血青黄

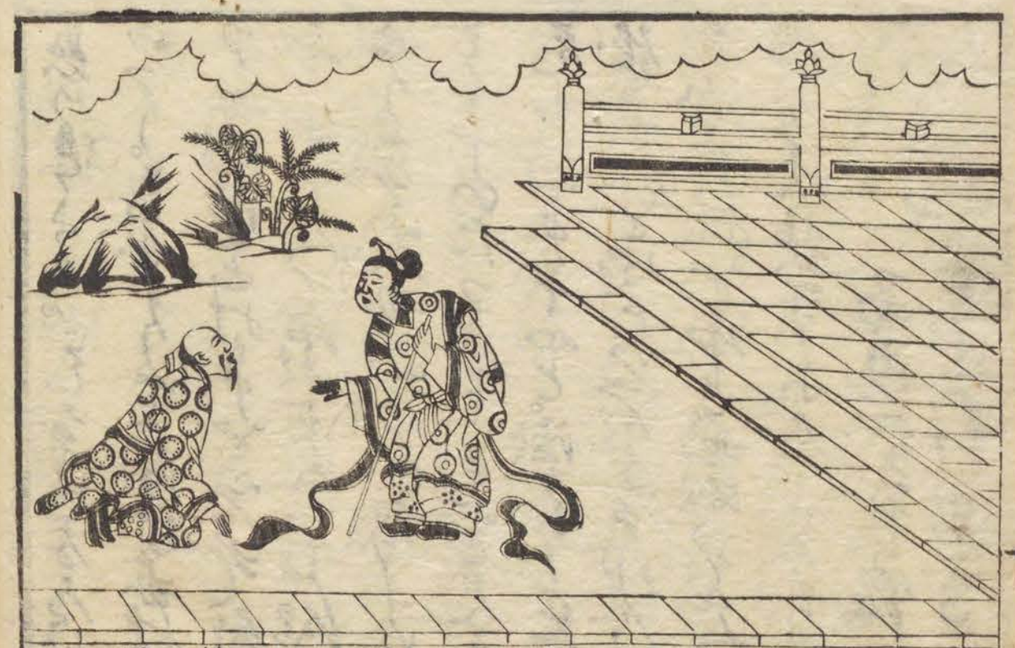
なりて。牆の上ゑのさうの。ぞう。皆人をゆんてく。
奇異れ。ごひとうまきをとうこう。東海三
年の間。大ゑ。罪をゆり。宇宙。うえ。そもおれまゑは
わ〳〵先のたゆ。柱て。孝婦と。教をるゆいてこと
ろなるを。惜れた。守を。ゆて。孝婦れ。墳のゑ。
いたりく。ぶなん人は。古守れいまこうてた海
ゑ〳〵海ゑ。ゑ。うさくりく。四方ゑ。たゆひき
て。大ゑ。毎ゆりぬるなる。方氏たゑまつこひ。郷の
ゑて。脇をたくいくうたゆ。ゆりとえ。前漢書干
宣風ゆ傳ゑ。貞〳〵たり

○詩曰　夫死持貞節　女姑可孝心
命乎鴉寺婦　豈復法諸侯

猶のこゆ。ゑ。婦れ婦の
貞女ゑして。姑ゑ。孝。
なるまとの人たる。一旬
ん。貞女たるまをいふ。貞
節。たしく。ミさはなるを
いふ。二の句ハ。姑ゑ。孝なる
をいふ。三の句ん。孝婦をか
めるまをいふ。教さは
かめるまを。罪。句ハ。孝
婦の罪なさゑ。教さ。色
まを。ゆけさ。をいふ
なるを

焦飯説

漢書に。異其学問人。性いたりて孝りを深く
好むと。ある時。郡吏なりたる母あるとつゐふ
錦をこれ焦飯と嘗これめるを。ふりて。弱まり
て他処ふあるをいへことを。平ふ袋と勝ふつをて
食とあるたびとふ。焦飯と錦をつくる。母汗ふ
とりあつ。その飯ふ孫恩といふとれありて乱
とうて。流涙はなれ色弱とたやをく感じ。
時ふ漢書錦焦飯と。教下わつ死たるといへた。
母れとふ。とうふ。ふ。ふ。



これ白ハ深き紅葉ふかりて。毋はたゑんふ金集俵をたくさんしまとるふ。二の白ハ深き紅葉ふ無礼とのゞ。三これ白はてらりとさる毋つくるまとるふ。四これ白は。虫たべ手ふつゝ時。深き。圓てかり。毋ふあひ。毋は同ちいてると耳ちいてることをいやゝしもあまをとふ。

祝神保

俤神保ハ連れ人ると。初して父毋ふたるまを孤ごとり。て。二歳のまをとふひ。その忍と報ぜんとしてふ二歳迄。ふつよ樹ふづるらんとするふ風山を。歳と報をもとこと。報ぜしていまさしふ。乞ふようて。現ふつゝ報とするふ叶を。を。ゆゑてはまふ。二歳の像を化て。寄ふ一ゝ。ふ毋と。実毋ふ。ふいつるるふ。あゝれ報ハ年ふ。ふて。あまをとなるふ。を。て。二歳の像を一本ふ刻て。約。ふつゝて。蛇の意地て。二歳は忍を現ぜんを。ふ。なるを。ふ一報毋毋の。ふらゝはんを。まふ。石屋山を云よ。入くるふ。一報毋毋の樹をねたると。神保大ふ怪ふ。を。礼ふ。て云。ふこは。ふ父毋の像を刻ぐく。背報た

まんと。三度礼をしぬきぬ。ぱっと来三度跡をうつして
神保山木を礼をうつ。ぐんぐんと師と僧て。二歌の像を雖色
あ小あ置し。常小まを無れ小木像小白ひつ。ふるまを。
年時のてう。ふ八者とふその摩と深き被とのく
たむ。鬱々扇とん。床枕とあとく。ま行ぐるはん。
それ行ところを者ぐるは木像小唯今四とあるる
ときゆ。ぐ。堂し本像小つふ像ま。三十年れ間。一百色か
ちるまを色ぐうて墨人それ者りなるまと。ふ同小
中又人ふ小ぐうるし。ふ小者像てぐ小ふ。
ところ。孝威。角小人ぐぐぐ

○詩曰　狐重不親在。深山来木保
　　今一工刻日忘歌　日拝動北歌

一れ句ハ歌のいはゝ無のまをといふ。二れ句深山
みく。一拝あ校をはそう
今小ぐまをといふ。三れ句
ハ二歌れ像を。たユ小化
ちしちをといふ。今下ハ者
ぐとうるるると。忘歌ハ
二歌のくちをといふ。四
乃句ハ木像小毎日向て。
むうはくさ小ぐまを
といふ。歌ハるけ三ぐ
くと。凍するるると

竹筒二魚　杜孝

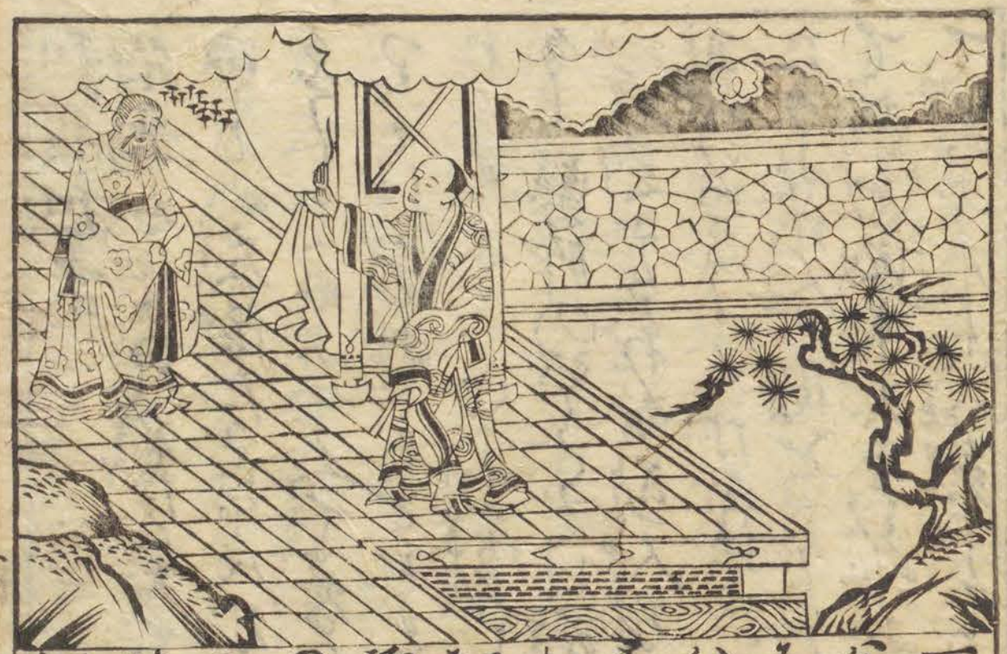
杜孝は家貧しき人なるゆゑに親に孝あり
とはくに居りまゐさんて食じつるに給ふ
に父ふとそれくゆゑとこゝにふとまうさふ
家貧しまふつきて蜀に成都にあるに
なるゆゑふりてゆきわとゆくりなくして
あつるゆゑ生魚をこれをこゝらに附ふ杜孝を
とくらく養ふ今他ふ所にあるゆゑ魚を食
たまふるあるゝ。見れふ母をとふ生魚をを
とくんとさんとこゝとゆへりたりを。村に杜孝生
魚をわぎりけりさと。二つにつり嫌大なる竹を
きりて筒とす魚二ッを入く筒をはを作

をは沒とんふ所に。究竹して云く母者ふをもける者
なるゆゑん通めぐくなるゆゑ母を祥ふとうもゆへと。
杜孝をたてゝ河の中ふ投入くゆゑ川ふ流るゝ
日杜孝ら書河西ふ行くんるふ竹筒を流くるあ
るゆゑ見れくゆゑ中とん海ふ生魚二つあるゆゑふ
ゆゑ杜孝を焼母をたゆんふとうゆふとうゆ
らんをいてゆつをもをこゝとをして焼ふもゆゑ姑をこ
ゆゑは他人をるゆゑふ所。杜孝ふあるすして他人
をんとゆゑをもをゆゑ母をゆゑ杜孝ふ
をうゆゑふ所まゆゑ河ふ果して他ゆゑ。見ふ
孫美をうゆゑ母ゆゑを流人杜孝を杜孝を。
ゆゑんざ海を河ゆゑこゝ孝子他ふんゝうゝ

○詩曰
為官牙在蜀
投水害生魚
急急如門鬧
君兆莫紘狩

詩に云ふ為官牙蜀に投
水して生魚を害すること
急急として門の鬧
君兆莫紘狩

後周の柴世宗の人なり。いとけなく者吹を
つとめ、やがて二親のために孝心ふかく。
年十六歳なる時、父の張めいたつ。浦元常に
父をうしなひ、ひとりのこしむまれつきたる
とまねきて、種々のくすりごとを父のもち
ゐ時、薬師坊とやんごとなき高僧、視さいの文句あ
つまりつくしたるとよむまもなくうせ七人の
僧とともにうけて、燒ごとに七日七夜おのづから薬師
坐を清しもあり。その時、おのづから孫ごかりて不
孝なる有りの父の父の目めいてんの色今光を
浦元の孝行の功徳ありて父



はれものをなたまくる。親祖父の髪
て育月の者こゝろんこゝいの病ま七日七夜ありてその
油じめ油ふいろく。義こゝろく。一人は老義れ
て金九郎とゝ療治。法元ふいろて云祖父
は毒三百をこゝろばたゝ病てわきこゝろゝん。
こゝろゝこゝろゝむまゝ
み病ぬゝと受て。夢なさゝんとゝゝて大
は子神と勢内の者ごもこゝろゝおやゝこ居たる
ふ三百すざぬ油ぬ。鬼ふ祖父の毒月ゝけて
あこゝゝゝゝゝこゝ。月史こゝゝゝ

○蹄口　弦扇ゝ引　嘗法祖父ゝ
後法雖去感　寶殺孝ん弥

一二は白ふ法元ゝ
父母ふゝ毒て。祖父
こゝゝ也といふ。蹄口
ひんづゝとよまをてい
けあきといふ三口は白
ゝ。祖父は月ゝ
とこゝゝて。茶碗
強をこゝゝ。又元治とた
のゝて。はゝ也といふ。
こは忠ふゝこゝて。祖父
は毒ゝこゝさたゝ
といふゝる

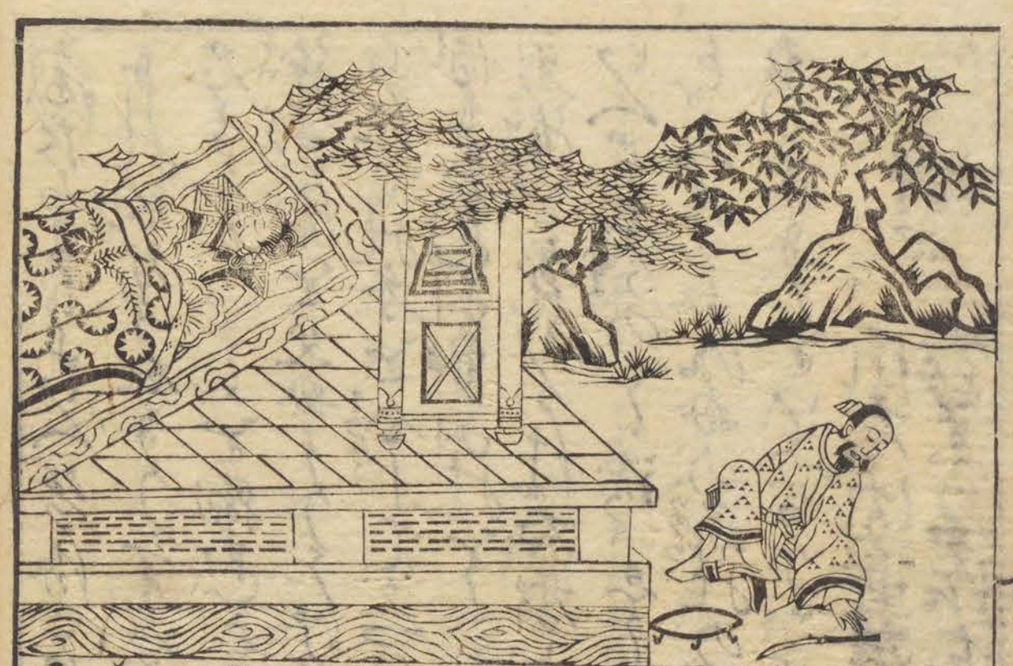
割股和歌

張嵩

張嵩母病篤医治効なし嵩乃大河に臥して天に祈りて
曰こゝに孝子あり願はくは我に代て母の命を救給へと
こゝろざしの神に通じてやがて夢覚て枕元に薬あり
服して母の病癒ぬ医師これを聞て感じ
涙を流す

○詩曰

病たちまちおこり人事を知らず嵩乃刀を取て股を割
き血をそそぎ入れ暫くして目を開き母の病癒ぬ
孝子傳に曰
父母に孝養を尽すこと天地を動かす誠あり
孝子嵩乃母の病篤しと聞て
ひとへに天に祈り
自ら刀を取て股を割き
血を注ぎ入れ
母の命を救ひ
孝子の誠
天地を動かす
○詩曰
沈重病
割股療親求
仲張孝婦



詩のこゝろをもつて
よろこやす。王祥の句は母
の病をとゝさといふ。この
句は孝密をのもう股を
さきて。菜の中ふべ
きといふ。三の句は
母の病をいたゝきます
といふ。四の句は病人
ぬすまこは母をいたゞ
だやうにて。ゐのみうを
ひろきまゝにいふなり
さいこ

王祥自刎

石耆也。楚王の人なる。父母ふはゝくいたりて孝
行なるなり。昭王の時ふ。那宝の時なり。孝行
道と行うふ。ふるうなる孝ふ人どこゝろ
ふぐ者ある。所より色をもうこゝろを石
耆知人とく人ぬるこゝ。孝父なり。穀をとゝらく。
永八色那宝の時なる。これまうこゝ色ここう
ゆうふ。あまくこゝさこゝ。
とゝこゝ色孝道ふゆうふ。父を飛科の人ふ
ゐれそよくこゝ。孝科ふ孝ふ
り。孝飛科の弟ふ。進長こゝふ
ふこゝろふ行くいとく。孝人をこゝ行者なる。色

を昭王に奏聞せざしとうり。そこにようく鉄丸
昭王に申あぐるまうり。昭王石奢をめして。のたまは
く。汝が父の父人をころしたるといふ。何ぞ汝が父が
かたうく。海教飛人となるやとおうせぶ。石奢
いはく。父をん。既をたつ。それ罪をあらさば。不
孝は逆罪なり。もし。おうせ王法は制禁をそむきて
父の罪をかばしゆるさは。又も不忠はなり。ものが
為ふといへ。いんことをもつて人倫を捨命を
捨て。父が罪をゆはんといふ。ぐうう刀をとり頸
を刎て死ぬるとぞいふ。流芳ぬ名なり

○詩曰　守官為邦吏　遇人殺人逃
別死全忠孝　世間奈何案

一は句ハ石奢殺なりとうるところ。殺ハこうるを吏ハを
さしたると訓を邦吏とさしたるなり。二は句ハ
奢の父人を殺をしをいふ。三は句ハ父は罪を死して。
たい節をぬうんで。自死をとうるをいふ。四は句は世間
ぬ者ぞ。は歟ぬ不孝なるをきは。又とうて。奢は
孝なるをいふなり。第郊祀ぬ。蒸嘗を祠ぬるぬ
一鳥破獍を刎るはとう。亜獍ハ母を食破
獍ハ父を食。不孝者は二は鳥歟をり。玄ハ鳥也。五月は
夏至ぬるをぬ。母を殺して食をう。れぬ夏至
ぬ鳥を殺して。百孝ぬ。めうて食をしめぬうと。
もも不孝なる種を殺ぐ。又鳥と夏至を
へて殺めて。法人ぬ見物をしるるを。獍ぬ

れ上ふとくとん。鳥こふ
家をは。つくるなり。世よ
神人を敬いふ。くるふ
を。鳥の字を書るなり。
ふ掛れ字。鳥れ字をんさと。
とらるゆまあるも。こみ
わやゆるまるも。筋ふ不、
鳥二鳳北遺感こりけ
流ふと。鳥れ字をとらくる
とよゆまるなるも。こと
り不孝れ罪をふく
いまり免ゆふるも

孝行陶

太内れ陳栄も。建列酬寧の人なり。父母ふ孝行な
つとゆして父ふとくもこ。母と長ふ長。それ貪たゞ四畑
を耕。彩ゆゞをえて。ふ。ふ。ふ。
老母毎日用りしたる。源栄耕ゞふ痛ゞれたる。
上ふは。結神ふ満ふ志こうて。こも弟を清。毎夕北
ふ向て。墨を擂。毎れ眼をゆふ。ゆふ。ゆふ。
ふ。ふ。ふ。

宿ゑこらく神人まうて。ぎて。ぐんやく船をぬて。
流だるふ者を。卵へしさて。あわくると。あを。
みづもふ流ふて。孔行ふ。あを栄と一ふ。ふれ。川栄了
たぐひしをあんを。ことふ。ぎて。ゆくと。思。竟ふ者のい
なるるまを。神を感ずるやとんいりぐ。又ある時
栄を濁ふより夫。ぎく栄を。ふつんを。その時栄を
他処ふあるを。ゆひうあふて。ぐんことそ。さ。
色栄を。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
て栄を。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
とーうをとを。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。

○詩曰　中庸ふ曰　火庖屋無燒
孝治章第四　鬼神祟変妖

一れ白ハ。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
とりふ。二の白ハ。夫。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
ま。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
白ハ。夫れ。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
れ。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
とりふ。変妖ハ。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。
ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。ぎて。

孔歌子左上

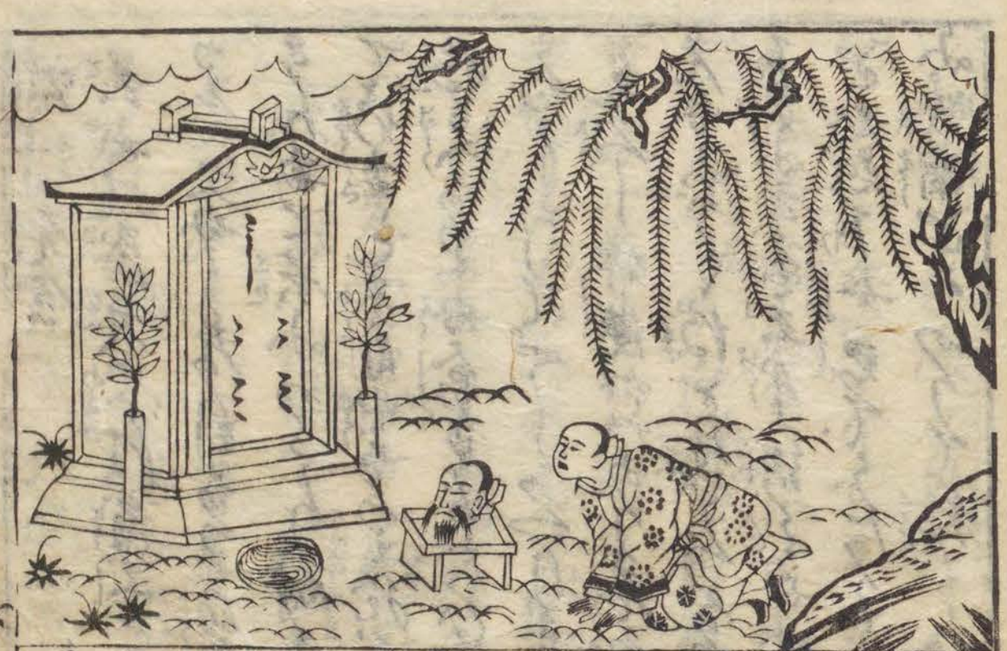
蓋蘧

蓋蘧ハ衛の賢人なり。ある時孔歌子とともに孤竹君の
て。夢ゆめ母とやしなひ。ある時の飯ごとに人を孝行
みつつして。母ゆめひて新をとけて。おもさうらく
まうくんゆまうをやしなひて。あるとしたの孔ゆ老母夢ゆ
んゆ楽ゆ肥ゆして。ようもあるとうもあるとの濃
ゆ貧人わるもこれハたゆ富てよゆ貧ゆ貧ゆ
なるゆ孔ゆ母ゆもわるいゆうるゆ山ゆ孔ゆ母ゆもつよう
知ゆわるゆ食ゆ母ゆもゆ孔ゆもゆ孔ゆもゆ孔ゆ
て母つゆかうもひ夢ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ
同ゆもあゆもゆなるゆ。乗ゆ蓋蘧ゆ母。濃母の妻人とゆ
て孔ゆ孔ゆ孔ゆ人の母ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ

孝ゆ父親ゆ孔ゆもゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ
ゆゆて。ゆゆゆば。蘧母ゆ孔ゆ母ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ
ゆゆ。ゆゆ蘧孝ゆゆて孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ孔ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

と打あるを。蘇化知ようとして見るに母郎て死
おいくるゝ蘇ゝをとつゝ。元八行るゝぞやと云八母
あれ下りつゝ蘇八濱れ鬼人来りて。走り去
ふ今命絶り ぬといふと魚たえぬ蘇を見
るくらひ母と葬て。墓れやうふみて。三年の
服とりて。さて濱人のところふ行鬼人と魚
母れ墓れあふとていそゝと走さ云るゝ。走より獄者
れ知ふ行。濱人と鬼八いるゝゝをもつ上ぬ人といふ者
人元と。浮瀧して元八つゝれ罪神ニハ天ゝるゝを
てゆるゝをふ鳥ニ。孝德侍ふかへゝゝゝ

○詩曰　きよ子承孝者　賊人徒母家
て不服ニ不罪ニ　知隈寡戒姫



一れ旬八蘇つゝふ人
といふ義者類ニハ。已れ
やゝ母とゝ海ゝく云
てつゝるといふ。二れ旬
八鬼人母として。机重
云ゝ海といふ。賊人ニハ
鬼人のまゝるゝ。三罪れ
旬八。蘇鬼人ニこと色
ぬゝ海といふ。五罪八五ハ
大ゝり。大罪ゝり。賢八鬼
といふ。姓八神人のまゝる
つゝ。濱れ鬼人ニこと

蟹蝗蟹充合

異國に盛長家に翁子さびに磨落れ人なりてこ
ろ母と云ふ幼稚みして父母とくまぶ
て行業も不自由なるに盛長年老れ
物乞ふて母食をたびとに盛長こづく嘗は
うゑ苦しみて母死して母の屍
夏々に婢使あり老母に戻てつくしたて
老母ちばく泣と杖うつるに盛長他れに行
下女に義を形紙に母みつくるものをいて
をおもふ下女更てうたるまとうこて光を
み蟹蝗とわかつて給しに母ならんと
いふに盛長と共に傾き共に盛長
と母かうして盛長
母死つて泣て泣
母死つて泣て泣
婢女に問ふ一切とも
ほとに見えず色蟹に問ふ鳥あり
婢女に問ふ婢使に問ふ
蟹蝗なりとこふ蟹蝗ハ業
ゝ色出とよまを盛長
とすし光を化物
き頑色母に抱付て號泣
押て放しこと晋史
○詩曰
毋食菌慈母
内来其間婢
盛長

蟹蝗味甚求
歸泣母情

一れ句。慶長あを物ゝ
嘲やしあふとゝいふ。二の句
ハ。下女意あふ。蝦蟇長
ゆゝしとゝいふ。三れ句ハ
慶長。他処より嘲あを
ふ。ゆゑれとゝあゝしと。
を先ゆまとゝいふ。四の句
ハ。下女責ゆまて。長長
と云へしと云とゝ。今
文和人しとなさぞと。
さけびなゝうまを
いふあゝ

大明神ゝ神の霊験あ
ゆり孝りなゝ。元ふゝりて。世ゝ
あざゝしゝふゝり。これ時節ふ建徳縣れ山中ふ
虎多して。屋ゝ人あゝ。里ゝ人ゝ
ゝゝらふなゝ。其時。老夫老母れ
行て。米を頂てゝ。
ゝ老夫ゝゝ人ゝ
ゝのゝゝゝゝ。
あゝて。命のゝゝ
俗死ゝ。ゝゝ老ゝ
ゝゝ老母ふあゝ

ゝ。今世間孔雀て。人多く
ゝ。今穀米ゝゝゝ
ゝれ同命を

ゆゑ母これ米を母ふわるくして。又こふ米ありてぬふ
害をくわんとこいふ。猛虎をゆて。いうまてあいき
とひとやゆ。ふわうこんあんをを色。歌をうた
ゐるうをして志りぞく。夫より農夫あふこう。米
と欲。食ものをうして母ふわるくこを白を言ぬ。
ふ丈米をとうを。金ふわふ母をやうをひをして母ふ向
て泪をぶし。泣くうこうして云。所る田野をりのこる
をふ虎ふわふ。毒を害ゆんをを毒虎ふいをく。これ米
を母ふわるくこうをりあるして。万命をとぶ泪ふまうをん
を伽米ゆをを今ハ虎ゆをこふ伏ゆる。今ゆををこ
ゆをし。性ハふゆををしく性を泪をを色ていくゆ毒をを
ゆをて云。所る虎ゆ雑を。通ふをして幸ゆををゆふ母

彼ふ泪して。死ふ泪くゆををゆんふをを。ぬるをり農
夫ゆ云毒をくくこん。居ふを孝ゆを。ゆをして。虎
ゆをを。ぬん人ゆ百ハ百異ゆ。ゆを毒数ふをを
らんゆを云て。母を。ゆて。彼ふいをりぬるふ。虎死人を
衛ゆをして。置。農夫を。を見て。を。ふ。蒙を云
ゆふゆををくして。そふゆ屍を取。ゆ帯ををくをん
泪ふ。金数十ゆあるを。を八ゆゆをるをこを
ゐんをこんひをして。を人ゆ。生老母をんゆくゆ
ふをりをいをり孝徳ゆ感ゆるをこを義数ふをいを

○詩曰

貧金反世治　貴毎百所安
貝数色困略　親虎口の強

詰のこ[illegible]
ぱまだらく虎ふ[illegible]
といふ僧ハそ[illegible]
まをて虎ろろて金と
わこんて参[illegible]
ろーまをいふなり

巻之下終

寶暦十二壬午年中冬

浪花出林　村上伊兵衛

詰のこ[illegible]ぶ[illegible]ま[illegible]
ぱまだらく虎ふ[illegible]ぬ[illegible]
といふ僧ハそ[illegible]ふるさと
まをて虎ろろて金と
わ[illegible]人て[illegible]ぬ[illegible]て[illegible]
ろ[illegible]ま[illegible]をいふなり

巻之下終

寶暦十二壬午年中冬

浪花出林　村上伊兵衛